

音の最終調整 真空管グラフィックイコライザーの調べ

特別付録：ラックスマン製真空管グラフィックイコライザー・キット



ONTOMO MOOK Stereo 編

音の最終調整

真空管グラフィックイコライザーの調べ

特別付録：ラックスマン製

真空管グラフィックイコライザー・キット

6月19日（金）発売

定価：17,000円（本体）＋税

本誌 A4 オールカラー 16頁

概要

MOOK ラックスマン真空管キットシリーズ第4弾 LXV-OT9は、真空管グラフィックイコライザー。オーディオは音量や部屋、スピーカーやその他機器など様々な要素によって周波数に変化します。グラフィックイコライザーがあれば、状況に合わせて心地良い音が作り出せます。キットですが、シャーシのネジ止めだけなので、プラスドライバーがあれば、だれでも簡単に確実に作ることができます。接続方法は、アンプのREC OUT とイコライザーの入力をRCAケーブルで接続、アンプのPLAY もしくは MONITOR をイコライザーの出力とRCAケーブルでつなぎます。

※モニター機能のないアンプの場合、ソース機器とアンプ入力間に接続。

グラフィックイコライザーは5バンド（55Hz / 220Hz / 880Hz / 3.5kHz / 14kHz）と扱いやすく、±8dBで可変可能。また、イコライザーのオン/オフスイッチがあるので、即座に効果を聴き比べることができます。

〈目次〉

- ・真空管グラフィックイコライザー・キットの作り方
- ・制作者が語る LXV-OT9 誕生物語
- ・マスタリングエンジニアに聞く いい音の作り方
- ・抵抗・コンデンサを交換して好みの音へチューン他

〈キット内容〉

シャーシ（4点）、基板、リベット、ネジ類、ACアダプター（24V）、ゴム脚、真空管（12AU7）。シリーズ同様、プラスドライバーのみで誰でも簡単に作れる〈SPEC〉

- 全高調波歪率：0.5%以下
- 入力インピーダンス：500kΩ
- 出力インピーダンス：330Ω
- 周波数特性：20Hz～100kHz -2dB以内
- S/N比：100dB以上（IHF A）
- クロストーク：-80dB以下

注文書

ONTOMO MOOK Stereo 編	店名	注文数
<p>音の最終調整 真空管グラフィックイコライザーの調べ</p> <p>特別付録：ラックスマン製 真空管グラフィックイコライザー・キット 定価：17,000円（本体）＋税</p>		冊

MOOKラックスマン真空管シリーズ

第4弾は **グライコ**

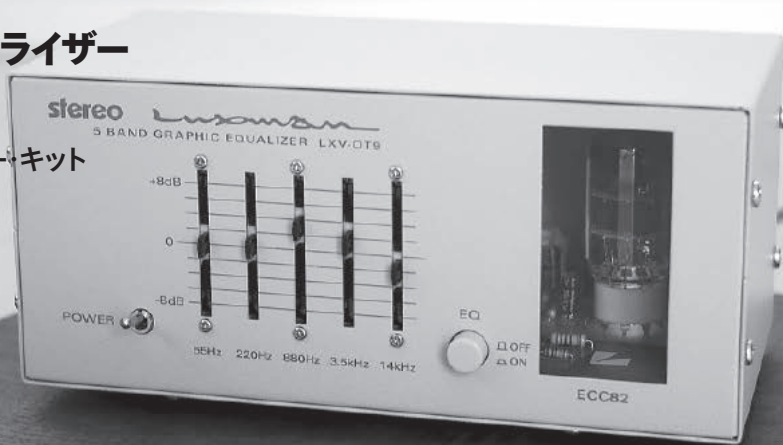
MOOK
音の最終調整
真空管グラフィックイコライザー
の調べ

ラックスマン製
真空管グラフィックイコライザーキット

6月19日発売予定
予価17000円+税

LXV-OT9スペック

全高調波歪率:0.5%以下
入カインピーダンス:500kΩ
出カインピーダンス:330Ω
周波数特性:20Hz~100kHz -2dB以内
S/N比:100dB以上 (IHF A)
クロストーク:-80dB以下



こんな方にオススメ

- トーンコントロールを使いたいけど音が悪くなるから使っていない。
- 録音が良くない音源をもっと楽しく聴きたい。
- 部屋の構造上、フラットな特性で再生できない。
- 大人しくてつまらない。もっと豊かに鳴らしたい。

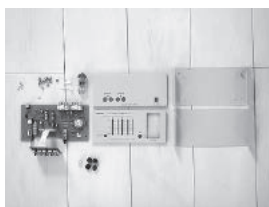
MOOKラックスマン真空管シリーズ第4弾は真空管グラフィックイコライザー。オーディオは音量や部屋、スピーカーや機器などの様々な要素によって、周波数が変化します。グラフィックイコライザーがあれば、状況に合わせて心地よい音を作り出せます。



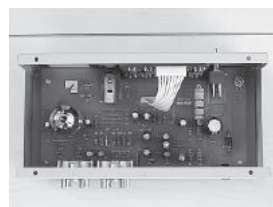
5バンドで(55Hz/220Hz/880Hz/3.5kHz/14kHz)を±8dBの範囲で調整できる。イコライザーのオン/オフ切替スイッチつき



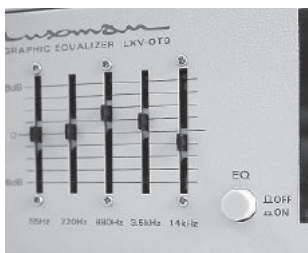
付属真空管は、さらなる高音質を目指すJJ製の真空管を採用



キット内容。シャーシ(4点)、基板、リベット、ネジ類、ACアダプター(24V)、ゴム脚、真空管(12AU7)。シリーズ同様、プラスドライバーのみで誰でも簡単に作れる



LXV-OT9 内部。基板と、イコライザーのつまみは、ハーネスでつながれた一体型



グライコがオフの状態では、30kHzまでほぼフラット。真空管が倍音を与えるハーモナイザー効果は得られる。オン/オフで即座に元の音と聴き比べができる



LXV-OT9 リア

プリアンプ、プリアンプのREC OUTとOT9の入力(IN)、MONITORもしくはPLAYとOT9の出力(OUT)をRCAケーブルで接続する。※モニター機能のないアンプの場合は、ソース機器の出力(OUT)をOT9の入力(IN)へ接続、OT9の出力(OUT)をアンプの入力(IN)へ接続。この場合、EQのON/OFFにかかわらず必ずOT9が通った音になる

55Hz	音にふくらみを与える。レベルを上げるとベース、パイプオルガンなどの低音域の楽器が安定感ある音に聴こえる
220Hz	低音に豊かさを与える
880Hz	臨場感や奥行きに関係する帯域
3.5kHz	明るさや硬さに関係する帯域
14kHz	冷たさや、繊細感を与える帯域。レベルを上げすぎると刺激的で金属的な音になる